

第 2 回核・放射線災害医療対応の標準化会議に参加しました(2013/10/24)

場所：東京フォーラム（東京都）

テーマ：「核・放射線災害に対応する医療チームの標準化」

10月24日(木)に第2回核・放射線災害医療対応の標準化会議に参加しました。第7回 Asian Conference for Emergency Medicine (ACEM)に合わせて開催され、午前中に2時間の公開ワークショップ、午後に2時間のワーキンググループ会議が行われました。

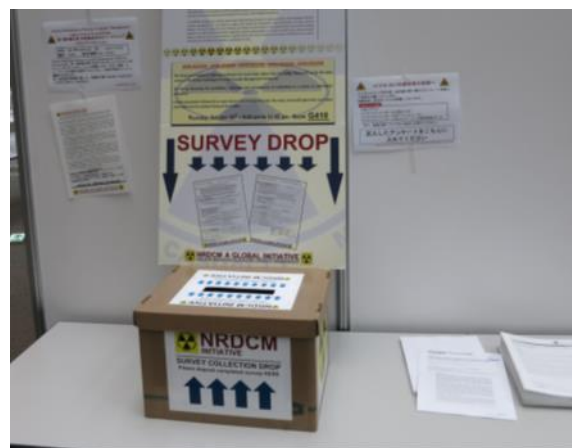
ワークショップでは米国、韓国、タイそしてわが国における核・放射線災害に対する医療体制の現状と問題点、医療対応チームに対する教育カリキュラム、将来起こりうる核・放射線災害のシミュレーションなどが提示されました。わが国における核・放射線災害に対する医療対応の問題点は、厚労省が管轄するDMATは、原子力規制委員会が管轄する放射線災害に対して対応することができないという行政の縦割り構造にあることが明らかとなりました。その反面、災害が起きたときに対応するNR-MAT(Nuclear and Radiological Medical Assistant Team)を実際に担当する医療従事者はDMATの隊員が兼ねるケースが多くなることが予想されています。ワーキンググループでは、核・放射線災害のみを特殊扱いする方法は、かえって災害対応に「自分の担当ではない」という縦割りの世界をつくりだし、速やかな対応を妨げる可能性があると話されました。災害に特殊な事情が絡むことはこれまでもよく知られており、CBRNE(Chemical, Biological, Radiological, Nuclear Emergencies)と呼ばれています。ワーキンググループではこれらに柔軟に対応できる能力を災害医療対応チームがもつことが重要であるとの認識で一致しました。

韓国で、核・放射線災害に対する災害医療対応チームの教育カリキュラムが樹立されつつあるところで、ワーキンググループの教育カリキュラムであるDisaster Life Support(DLS)に内容を付加していき、カリキュラムとしての評価を行うことも一致されました。

ACEM学会参加者に対してワーキンググループが作成したアンケートが配布され、回答を集約して災害医療対応者の意識調査が行われました。わが国においても全DMATに対して配布される予定です。



NRDCM ワーキンググループ会議



ACEM 参加者へのアンケート調査

文責：江川新一（災害医学研究部門）